



若者のしなやかな発想と行動力

このところ若い世代の発言なり行動に目を見張らされるのがしばしばである。自らの感覚をもって時代としっかり向き合い、確実に時代を変えつつあるように思う。その一つがこの四月二〇日の「2014協同集会 in 千葉」でのNPO法人Homeres理事長の川口加奈さんの特別報告である。川口さんはこの春、大学を卒業したての二三歳、ごく普通の若者女子である▼一四歳の時、いつもは電車で通りすぎていた釜ヶ崎で電車を降りて、青デントの並ぶ街を歩いて以降、炊出しへの参画、釜ヶ崎の実情を知らせる新聞発行、炊き出し用お米boxの設置、モーニング喫茶等に取り組む。しかしながら「やる前とやった後で何も変わっていない」事実には愕然とし、大学二年の時「ホームレスを生み出す日本の構造を変えたい」と一念発起してNPO法人を立ち上げる。おっちゃんたちのパンク修理という得意技を生かしての自転車のシェアサイクルHUBchari、ビニール傘のリサイクル事業等を次々に展開。おっちゃんたちの自立・就労に大きく貢献してきた▼若い世代は、高度経済成長の夢に捕らえられることなく、自らできるところから活動に着手していく軽やかさと現実感覚、そしてIT活用能力に富む。若者だからこそ行き詰まった現状を打破し、あらたな地平を切り開いていく可能性を秘めているように強く感じる。

(土着菌)